

輝け！シン尾花沢中

気高く晴れた 月の峰 雲間にそそる 鳥海の

タイトルデザイン
教育指導室
伊藤瑞稀さん

ミニトマトの栽培を通して育まれる心



左の写真は登校時の、右の写真は下校時の、ミニトマトの周りに集まる生徒の様子です。

現在、2年生の技術「生物育成に関する技術」の授業で、生徒はミニトマトを育てています。

植物の育成については、水をやったり草をとったりする経過がとても大切です。しかし「水かけを忘れたり、汚れるから草むしりをしなかったり、と、まるで他人事。種を植えるときと収穫のときしか、植物に関わらない。」という嘆きの声を、よく聞きます。

しかし、尾中生は違います。いやがうえにも目につく昇降口前にあるとはいえ、毎日の登下校時に「ミニトマトがどれくらい育ったかな？」と、興味津々でのぞき込む生徒の姿がみられます。実はこういった経験が非常に重要であると思っています。こういった経験を通して、まるで我が子のようにミニトマトを慈しむ心が育っていくのです。自分で育てたミニトマトを食べるときのおいしさは格別なことでしょう。

学校周辺では多くの植物を目にすることができます。

ひまわりは、尾花沢中で一番背の高い生徒の身長をいとも簡単に超えました。「いつの間にこんなに大きくなったのか」と生命のたくましさを感じることができます。

6月はムラサキツユクサが校門の近くで紫色の花を咲かせていました。美しいものを美しいと感じる心が育てられます。

自然への畏敬の念をもち、いろいろなことを感じ取ることができる、学ぶことができる、そんな尾中生であってほしいと思います。



ひまわりの隙間から登校する生徒の姿が…



ムラサキツユクサ、上品な色合いです

【文責：校長 工藤雅史】